

永井先生からのメッセージ No.4

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2022年 12月 2日(金) 野毛山幼稚園

【自分で判断する力～大人に言われなくても～】 元小学校教諭 永井 裕



▶夏祭りのある日。4年生の姉と、年長さんの弟が、出店の通りを歩いていると……弟が、「あっ！」手にもっていたポップコーンが、カップからこぼれ落ちてしまいました。姉はすぐにしゃがみこみ、散らばったポップコーンを拾い集めようとしていました。



すると弟が言いました。「きたないから拾っちゃだめ」。すると姉が言いました。「きたないから拾うんだよ」。

▶弟の「汚いから拾っちゃだめ」は、「落ちたもの＝汚い＝食べてはいけない」という判断で、これは、「汚いものにさわってはダメ！」という親の教えをしっかりと守ったということです。その一方、姉の「汚いから拾う」は、「公共の場を汚してはいけない・そのままにしてはいけない」という判断です。



▶その姉が、1年生の時。こんなことがありました。

◎近くの公園に一本のひまわり。その根元に空き缶が一つ。彼女は、気付いたけれどそのまま通り過ぎました。でも、ひまわりは、にっこり笑いました。

◎次の日。空き缶はそのまま。彼女は、(空き缶がない方がいいのにな) そう感じたけれどそのまま通り過ぎました。でも、ひまわりは、にっこり笑いました。

◎その次の日も空き缶はそのまま。(わたしが拾えばいいのかなあ)。彼女は迷ったけれどそのまま通り過ぎました。でも、ひまわりは、にっこり笑いました。

▶結局、彼女は空き缶を拾っていない。それなのになぜ、ひまわりは、にっこりとほほえんだのか。それは、彼女が「空き缶に気付いたから」「ない方がいいと感じたから」そして「迷った」からです。大切なのは、「拾う」「拾わない」という目に見える行動ではなく、「気付く→感じる→迷う」という心の動き、だからです。 ※翌日、彼女はついに缶を拾います。ほほえみ合う二人の向こうには美しい虹が。

▶家の中。「片付けなさい」「ゴミ、拾いなさい」が繰り返される毎日かと存じますが、たまには、「ゴミに気付いたらホメル」「このままではイヤと感じていたらホメル」「迷っていたらホメル」をぜひ、おすすめします。『自分で判断する力』というのは、そうした中で育まれていくものだからです。

▶東日本大震災から1年後。仙台の小学校を訪れた際に、次のようなお話をうかがいました。校舎内外の清掃。子どもたちの心の中には、当然「汚いからイヤ」という気持ちが。しかし、その気持ちを乗り越え、「汚いままではイヤ」という気持ちを強くもてるようになると……不思議なことに、「意地悪・いじめ」といった問題がなくなったというのです。

▶「汚いからイヤ」は、『排除』です。「きれいな子はイヤ」という気持ちも同じ心から生まれます。一方、「汚いままではイヤ」は、『浄化』です。「誰かをきれいなままではイヤ」「クラスみんなで改善しよう」。子どもたちが、『自分で判断する力』を発揮し始めたということなのでしょう。

▶『いじめ』に限らず、教育現場には様々な問題があります。しかし、もしかすると、改善策の根っこは全て同じ。「汚いから拾う」そんな感性を根気強く育てていくことなのかもしれません。

